

Title	編集後記；奥付
Sub Title	
Author	石井, 拓(Ishii, Taku)
Publisher	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム論理と感性の先端的教育研究拠点
Publication year	2007
Jtitle	Newsletter Vol.2, (2007. 12) ,p.8- 8
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002003-00000002-0010

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究員紹介



石津智大

今回、人文グローバルCOEの非常勤研究員になりました石津智大です。ヒトは身体像の認識を通して自己・他者をどのように弁別しているか、また、視覚領域における皮質間の相互作用と視覚認識との関連といったテーマを、EEG、NIRS、MEGを用いて研究してきました。

最近では、予期から逸脱した刺激を脳がどのように自動的に検出しているのかについて、顔・身体像を用いて研究しております。どうぞよろしくお願致します。



菅佐原洋

現在まで、発達障害児の読み・書きなどのリテラシー学習における困難に対し、応用行動分析の観点からコンピューターを用いた教材を作成し、支援を行う介入研究を中心に行ってきました。また読み・書きの獲得や学習に伴う脳の可塑性について、近赤外線分光法(NIRS)を用いた研究も行ってきました。

今回のグローバルCOEでは、文字や意味といった刺激間における等価な関係の学習やその派生的関係の成立における「論理」や、他者の表情認知といった社会的刺激に対する「感性」に対し、発達の観点、脳機能的な観点からアプローチしていきたいと考えております。



佐治伸郎

言語と認知班の非常勤研究員の佐治伸郎です。人間が創造的に言語を使用する為に必要となるスキーマの知識に大きな関心を持っています。例えば動詞や機能語が紡ぐ外界の事物の様々な「関係」の理解は、人間の多彩な言語運用を生み出すために必要不可欠なものです。子どもはこの

言語が織り成す「関係」の世界を、何を手掛かりに、どのような過程を経て構築していくのでしょうか。グローバルCOEではこのような問題意識を通じ、実験的手法を用いて人間の論理と感性の問題へとアプローチしたいと考えております。どうぞよろしくお願致します。

日本学術振興会特別研究員

(グローバルCOE)

秋山武和

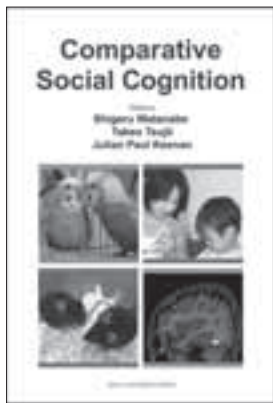


現在、慶應義塾大学医学部外科学教室脳神経外科専修医6年、大学院博士課程3年です。脳神経外科には機能的脳神経外科という分野があり、手術前に機能的MRI、MEG等を用いて脳の機能局を分析し、手術中もナビゲーションシステムや神経モニタリングを併用することで、できる限り脳機能を温存し正確に手術することを目標とします。今後は言語、運動機能を温存するだけでなく、様々な高次脳機能を正確に温存するような手術をする時代に入ると考えられます。機能的MRI、MEG、経頭蓋磁気刺激といったtoolを用いて研究を行い、様々な高次脳機能を解明していきたいと考えております。

事務局だより

関連書籍の紹介

“Comparative Social Cognition”



本GCOEの拠点リーダー渡辺茂、特別研究教員の辻井岳雄、モントクレア州立大学のJulian Paul Keenanの共同編集による社会的認知の論文集が慶應義塾大学出版会より刊行されました。これは、2006年8月に開催された国際シンポジウム「高次脳機能としての社会的認知」を元にしており、自己認知や社会的コミュニケーションなどの社会的認知を(1)高次脳機能として、そして(2)系統発生の結果として捉えた最

近の研究成果が本書にまとめられました。

ISBN978-4-7664-1444-8

編集後記

今号のニュースレターでは、各班のより詳しい研究内容や拠点ウェブサイトなど、当拠点のコンテンツの紹介に比較的多くの記事を割きました。現在、三田東宝ビル内の研究室の改装や、信濃町キャンパスリサーチパークでのマーモセトラボ開設計画などが進み、拠点の研究環境が次第に整いつつありますので、今後これらのコンテンツが一層充実していくことが期待されます。また、年明けには一般向けのものを含む2つの全体シンポジウムが企画されているなど、活動予定も目白押しです。ニュースレターでは今後も日々着々と進展する当拠点の活動を活き活きとお伝えできればと思います。(石井 拓)

活動予定

● 第1回全体シンポジウム [Logic of Shadow]

日時：2008年1月11日

会場：慶應義塾大学 三田キャンパス 北館ホール

講演者：Roberto Casati、他

● 第2回全体シンポジウム(一般公開シンポジウム) [理屈?屁理屈?理屈めき?—考える心、感じる心—]

日時：2008年1月19日

会場：東京国際フォーラム B7 ホール

*詳細は5ページをご覧ください。

● 第3回全体シンポジウム [Rational Animals, Irrational Humans]

日時：2008年2月9-11日

会場：慶應義塾大学 三田キャンパス 北館ホール

講演者：A. Young、L. Hurber、D. Lestel、他

*詳しくは下記事務局までお問い合わせ下さい。

慶應義塾大学 論理と感性の先端的教育研究拠点
Centre for Advanced Research on Logic and Sensibility
Newsletter 2007, December, No. 2

発行日 2007年12月26日

代表者 渡辺 茂

〒108-0073 東京都港区三田3-1-7 三田東宝ビル 7F・8F

TEL : 03-5427-1156

FAX : 03-5427-1209

coe-office-al@flet.keio.ac.jp

http://www.carls.keio.ac.jp/